

名古屋市立大学 SDGs活動レポート (2021年度版)



SDGsセンターの開設セレモニー及びSDGs IDEA FORUM 2020 で最優秀賞を受賞した本学学生デザイン自動販売機の除幕式を開催！



<p>活動の概要</p>	<p>2021年5月14日、本学に開設した「名古屋市立大学SDGsセンター（NCU SDGs Center）」のオープニングセレモニーを山の畑キャンパス1号館にて開催しました。SDGsセンター長の薬学研究科 林教授の挨拶に続き、参列した名古屋市総務局の関嶋主幹、池田主幹よりお祝いの言葉が送られました。</p> <p>また、SDGsセンターの活動の第一弾として、本学人文社会学部の学生とコカ・コーラ ボトラーズジャパン（株）とのコラボレーションにより、学生デザインのイラストをラッピングした自動販売機が同大学山の畑キャンパスに設置され、その除幕式も行われました。デザインは、大学生のアイデアで名古屋市の地域課題の解決を目指す「SDGs IDEA FORUM 2020」で最優秀賞を受賞した人文社会学部学生グループ「NCU Global Justice Project」が、海洋プラスチックゴミ問題の解決の一環として企画したものです。</p> <p>今後も本学では、行政、産業界、金融界などの各機関との連携を深めながら、国際社会共通の課題に積極的に取り組んでまいります。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年5月</p>



名古屋市立大学SDGsセンター 開設セレモニーの様子



自動販売機の除幕式の様子

内閣府 地方創生SDGs官民連携プラットフォームに会員登録しました



活動の概要	名古屋市立大学は、内閣府が設置した「地方創生SDGs官民連携プラットフォーム」に会員登録しました。 これは、SDGsの国内実施を促進し、より一層の地方創生につなげることを目的に、広範なステークホルダーとのパートナーシップを深める官民連携の場として設置されたものです。
活動の時期	2021年6月以降
関連URL	地方創生SDGs官民連携プラットフォーム

名古屋市SDGs推進プラットフォームに会員登録しました



活動の概要	名古屋市立大学は、2021年5月に名古屋市が創設した「名古屋市SDGs推進プラットフォーム」に会員登録しました。 本学の設置団体でもある名古屋市とともに、SDGsの達成に向けて取り組んでまいります。
活動の時期	2021年6月以降
関連URL	名古屋市SDGs推進プラットフォーム

本学医学部生による「ありたい内視鏡医療労働の未来像」を考えるワークショップを開催！



<p>活動の時期</p>	<p>2021年6月11日および25日に、本学医学部4年生の社会医学（予防医学基礎）コース・社会医学実習のテーマ内で、「ありたい内視鏡医療労働の未来像」を考えるワークショップを行いました。</p> <p>本学は、2020年12月にJSTの共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）育成型において「近未来労働環境デザイン拠点」事業として採択されており、SDGs Goal 3, SDGs Goal 8, SDGs Goal 11の達成への寄与として、「すべての労働者が労働しながら元気になる労働環境をデザインする」ことを目指しています。今回のワークショップは、このプロジェクトの一環として開催したものです。内視鏡治療医療従事者の間では筋骨格系障害が多数報告されており、未来の労働環境改善のための具体的な方策を学生目線で議論しました。</p> <p>当日は、内視鏡治療に関する基礎講義を行った後、16名の学生を4グループに分け、「100歳まで元気に生き活きと、働きながら健康になる未来の内視鏡医療労働ビジョン」というテーマでグループワークを行いました。学生たちは、「労働のあるべき姿（ありたい姿）」の要素を抽出し、バックキャスト手法（現状の課題から未来を考えるのではなく、未来の「ありたい姿/あるべき姿」を設定し、そこから逆算で“いま”を考える思考法）で2040年の内視鏡労働医療ビジョンを議論しました。</p> <p>最後に行われたプレゼンテーションでは、「内視鏡医療労働は時間的にポータレス化が進むことが予想される。個人の持つ知識・経験・スキルは共有知として世界中で共有され、未来の内視鏡医の育成・教育面や内視鏡医の労働環境がグレードアップすることが必要。」「医療チームの質を可視化し、チームの持つパフォーマンスを客観的に評価可能な技能評価制度が実現。正当に技能評価されることで、医療従事者のモチベーションを喚起し、医療の質情報を患者も参照できることで、市場原理・競争原理が作用し、医療の質も向上する。」などの未来ビジョンが発表されました。</p> <p>「未来の医療労働のあるべき姿」を考えることを通じて、働きがいや経済成長、産業と技術革新の基盤の整備といった社会システム要素が医療従事者の健康・福祉と関係することを包括的視点で考えることを通じて、SDGsの基本的理念の習得にもつながる教育プログラムです。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年6月</p>



当日の様子1



当日の様子2

【学生の感想（一部抜粋）】

- 技術の限界を考えずに未来ビジョンにディスカッションするのはとても面白かったです。別のテーマでもやってみたいと思いました。
- 労働に関して、樹形図（マインドマップ）を書くなどして話し合うことで新たな視点から考えることができました。自分たちが考えた未来像が少しでもいい方向に実現したらいいなと思います
- 未来と一言で言っても皆それぞれ出てくるイメージが違い、他の人のアイデアなど発表で確認できて面白かった。
- 未来のテクノロジー発展や新しいデバイスについて想定をしながら教育面や労働環境面についてディスカッションし先生方や同級生たちの様々な考え方や意見を聞け、医療機器についての柔軟な発想やAIや翻訳技術の進化へのアプローチの仕方やそれらを用いた教育など、自分が考え付かなかったことも多く学びが多かった。
- 今まで医療の未来ビジョンについて詳しく話し合ったりする機会はなかったので、今回のワークショップはとても有意義なものだった。マインドマップに意見をまとめていくことでそれまで出た意見から新しい意見を考えやすくなった。そして堀先生の講義などを通して内視鏡についての理解も深まった。
- グループで行うことにより考えが深まりました。堀先生に実際の現場での状況を聞けることで内視鏡治療への理解も進みました。最初は漠然としたものが多くまとまるのが不安でしたが先生方の助言により良いものができたのでやってよかったと思いました。
- 1人で考えるよりグループでアイデアを出し合った方が、多面的、奇抜な発想が多く生まれて、解のない問題解決の手法としてとても興味深いと体感しました。ワークショップ前はこの方法では地に足がつかぬ結論しか出ないのでは、と思っていましたが、堀先生の講義と、その後ワークショップに参加して下さることにより、良いバランスでワークショップを進めていくことができたと感じています。
- 普段講義を聞くのがあまり得意ではない自分ですが、堀先生の講義を真剣に聞くことができ、内視鏡治療について興味が湧いたの

は言うまでもなく、話し合いの途中で榎先生や堀先生から直接貴重なアドバイスをいただけて、自分たちにとって得るものがとても大きかったグループ実習でした。

【4グループの学生がまとめた未来ビジョン】 ＊クリックして拡大

Preferable Future 2040

テラーメード・バイオセンシングを用いた包括型医療・予防システムが実現する。
多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

Aグループ

Preferable Future 2040

内視鏡医療労働は時空間的にボーダレス化が進む。個人の持つ知識・経験・スキルは共有知として世界中で共有され、未来の内視鏡医の育成・教育面や内視鏡医の労働環境がグレードアップする。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

Bグループ

Preferable Future 2040

医療チームの質を可視化し、チームの持つパフォーマンスを客観的に評価可能な技能評価制度が実現。正當に技能評価されることで、医療従事者のモチベーションを向上し、医療の質も向上する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

Cグループ

Preferable Future 2040

健康増進を担保する働き方が常識となる。医師の労働環境が整備され、若手医師が高度な医療技術を早期に習得可能なシステムが整備される。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。
● 多様なセクターが協同・連携して医療・生活のビッグデータを利活用し、「患者の生きがい」と「医師の働きがい」を共有する。
● 遠隔診療や在宅医療により、患者の生活圏に合わせた医療が実現する。

Dグループ

指導教員：

医学研究科環境労働衛生学： 榎 毅彦教授、松木太郎特任助教

医学研究科消化器・代謝内科学： 堀 寧助教

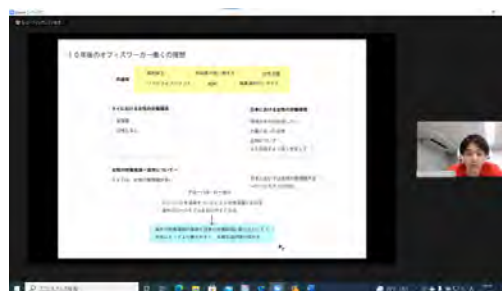
タイと日本の大学生が近未来の労働環境について議論するオンライン合同ワークショップを開催！



<p>活動の概要</p>	<p>2021年7月21日（水）に、本学近未来労働環境デザイン拠点が中心となり、タイと日本の大学生が近未来の労働環境について議論する合同ワークショップを開催しました。</p> <p>本学は、令和2年12月にJSTの共創の場形成支援プログラム（COI-NEXT）育成型において「近未来労働環境デザイン拠点」事業として採択されており、SDG3,SDG8,SDG11の達成への寄与として、「すべての労働者が労働しながら元気になる労働環境をデザインする」ことを目指しています。今回のワークショップは、このプロジェクトの一環として開催したものです。</p> <p>当日は、本学に加え、タイの国立大学であるプリンスオブソンクラ大学（PSU）、岐阜市立女子短期大学の学生54名が参加しました。7つのグループに分かれてディスカッションが行われた後、10年後、そして25年後の「労働しながら元気になる労働環境」についてグループごとにプレゼンテーションを行いました。参加した学生からは「10年後はもっとオンラインでの仕事が進んでいると思うが、オンラインの便利さと対面の良さを生かせるオフィス作りが重要」「女性が結婚、出産後も職場に復帰できる環境作りや、残業や休日勤務がなくプライベートが確保できる環境作りが必要」などの意見が発表されました。</p> <p>※本件は、8月8日（日）の毎日新聞（地方版）に掲載されました。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年7月</p>



タイと日本の学生によるディスカッションの様子



学生によるプレゼンテーションの様子

SDGs IDEA FORUM 2021の開催について



<p>活動の概要</p>	<p>名古屋市立大学では、令和元年7月に「SDGs 未来都市」に選定された名古屋市と連携して、SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取り組みを進めています。2020年度に引き続き、2021年度においても、名古屋市と共催で、SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決に導く「SDGs IDEA FORUM 2021」を開催します。</p> <p>【SDGs IDEA FORUM 2021における名古屋市の5つの地域課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■人々が健康に生きられるまちづくり（SDG3,SDG11,SDG16） ■名古屋の子どもたちにSDGsを広めよう（SDG4,SDG17,SDG11） ■名古屋から食品ロスを減らそう（SDG2,SDG4,SDG12） ■多文化が共生できるまちづくり（SDG3,SDG10,SDG11） ■名古屋を生物多様性先進都市に（SDG13,SDG14,SDG15）
<p>活動の時期</p>	<p>2021年8月～2022年2月</p>
<p>関連URL</p>	<p>SDGs IDEA FORUM 2021</p>



名古屋市の地域課題を、大学生のアイデアで解決する。

名古屋市は、2019年に「SDGs未来都市」に選定され、SDGs達成のために市民が一体となって地域の課題を解決していくことが求められています。そこで、名古屋市にキャンパスを置く大学・短期大学の大学生から柔軟かつ革新的な発想を募集し、地域課題の解決を目指すプロジェクトをスタートします。



SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を公開。 学生が主体となり解決に向けたアイデアを募集。 アイデアコンテストを 優秀アイデアには経費無償で提供し取り組みを支援。

2021年度は5つの地域課題を選定。



主催：SDGs IDEA FORUM 実行委員会（名古屋市・名古屋市立大学）
 後援：中日新聞社 名古屋銀行 朝日インテック

NCUサステナビリティ・シンポジウム2021開催！



概要

2021年11月3日(水)にオンライン（ZOOM使用）にて、NCUサステナビリティ・シンポジウム2021「防災×SDGs～いま、私たちが備えることとは～」(名古屋市立大学主催、名古屋市・名古屋市教育局委員会・JICA中部・名古屋市立大学SDGsセンター後援)を開催しました。

今年は東日本大震災から10年という節目の年であること、また昨年から続くコロナ禍での暮らしに鑑み、災害に対する私たちの平時の営みや暮らしが改めて問われている一年でした。災害に対しての危機意識を問い返す時機にあると言えますが、市民目線では、危機意識に個人差があることは否めません。南海トラフ巨大地震が想定される今、SDGs（Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標）にある17目標を包括的に捉えながら、私たちのいまをふり振り返り、今後のあり方を考えていくことが求められています。

そこでシンポジウムでは防災とSDGsを掛け合わせ、不確実性の高い時代に生きる私たちにとってすべきこととは何かを考え、子ども・若者の視点から示し、発表しました。

なお、本シンポジウムに関する事業は名古屋市立大学特別研究奨励費(地域貢献型共同研究の推進事業)の助成を受けて実施されました。

参加チーム

- ・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 曾我ゼミ
- ・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 椎名ゼミ
- ・名古屋市立大学看護学部看護学科地域保健看護学ゼミ
- ・名古屋市立大学高等教育院CS: presentation
- ・オルタナティブスクール あいち惟の森
- ・名古屋市立北高等学校国際理解コース
- ・名古屋市立名東高等学校国際英語科
- ・名古屋市立工芸高等学校都市システム科

スケジュール

- 13:30 - 13:40 開会の挨拶 (名古屋市立大学SDGsセンター長 林秀敏先生)
- 13:40 - 15:00 各参加チームからの報告 (1チーム×8分)
- 15:00 - 15:10 休憩
- 15:10 - 15:40 ワークショップ (ブレイクアウトルームによるグループワーク)
- 15:40 - 16:00 各班からの報告
- 16:00 - 16:20 表彰式 (審査員からの講評)
- 16:20 - 16:30 閉会の挨拶 (名古屋市立大学人文社会学部長 山本明代先生)

審査員と審査結果

各チームの発表を、「テーマと提言／研究内容の適合性」、「プレゼンテーションのわかりやすさ」、「若者目線の独創性」の観点から審査して下さった審査員は、次の6名です（五十音順、敬称略）。

- ・根 岸 恵 子 (特定非営利活動法人こどもNPO理事長)
- ・長谷川 哲 司 (名古屋市教育局委員会事務局指導部指導室指導主事)
- ・林 秀 敏 (名古屋市立大学SDGsセンター長)
- ・水 野 角 栄 (名古屋市防災危機管理局危機対策室室長)
- ・村 上 裕 道 (JICA中部センター所長)
- ・山 本 明 代 (名古屋市立大学大学院人間文化研究科長・人文社会学部長)

審査を待っている間、参加者である高校生・大学生らはチームの枠を超え、それぞれのチームの報告から何を学び、「いま、私たちが備えることとは何か」について話し合うグループワークを行いました。それぞれのチームの報告から、防災へのさまざまなアプローチがあることを知るとともに、幅広い視点から防災を捉えることの大切さに気づき、当事者意識をもって日常にいかにかかすことができるのかを考える機会となりました。

審査結果

- ・最優秀賞 : オルタナティブスクール 惟の森
- ・優秀賞 : 名古屋市立北高等学校国際理解コース
- ・審査員特別賞: 名古屋市立大学看護学部看護学科地域保健看護学ゼミ
- ・研究・実践賞: 名古屋市立工芸高等学校都市システム科
- ・奨励賞 (プレゼンテーション部門) : 名古屋市立大学高等教育院CS: presentation
- ・奨励賞 (オリジナリティ部門) : 名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 曾我ゼミ
- ・奨励賞 (防災部門) : 名古屋市立名東高等学校国際英語科
- ・奨励賞 (SDGs部門) : 名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 椎名ゼミ

当日の様子



本学学生が制作したSDGs関連動画が「やお80映画祭2021」で入選！



活動の概要	<p>本学芸術工学部の学生グループ「映像によるまちづくり」が制作したSDGsに関連する動画が、「やお80映画祭2021」において入選しました。</p> <p>「映像によるまちづくり」は、本学のSDGsアンバサダーとして認定されているグループです。</p> <p>【部門】 学生部門</p> <p>【題名】 「小さな勇氣」</p> <p>【グループ】 映像によるまちづくり</p> <p>【作品概要】 SDGsの開発目標である「3.すべての人に健康と福祉を」をテーマにしたショートムービーで、談笑する女子高生グループの中にいる主人公が、グループの中でただ一人だけ車椅子に乗って困っている人がいることに気づくストーリーです。身の回りにいる困っている人に気づけない無関心さに対する問題提起をするとともに、自分の身の回りに困っている人がいることに気づいたときに、見て見ぬふりをするのではなく勇氣を出して手助けできる人が増えてほしいという思いを込めて制作したものです。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	「やお80映画祭2021」入選作品一覧



名古屋市SDGs推進プラットフォームによるプロギングに参加！



<p>活動の概要</p>	<p>本学SDGsセンター長である林教授と事務職員3名が、2021年12月4日（土）に名古屋市SDGs推進プラットフォーム会員限定交流イベントとして開催された「プロギング」に参加しました。</p> <p>「プロギング」とは、ごみ拾いとジョギングを合わせたスウェーデン発の新フィットネスで、走って健康に、拾ってエコに、環境と健康の両方にやさしいSDGsを体現できる新しいスポーツです。</p> <p>本学から参加したチームは、会場となった丸の内エリアを中心に、2km強ほどの距離をジョギングしながらごみ拾いを行いました。</p> <p>今回のプロギング全体では、35kgものゴミを拾いました。</p> <p>本学では今後も、名古屋市と連携し、SDGs達成に向けた活動を積極的に推進していきます。</p>
<p>活動の時期</p>	<p>2021年12月</p>
<p>関連URL</p>	<p>名古屋市SDGs推進プラットフォーム×プロギング</p>



国費留学優先配置(特別枠)事業「環境健康安全学」プログラム



活動の概要	主に東南アジア諸国の①海外拠点校②大学間交流協定校から選抜された国費留学生に加え、本学の医学研究科、薬学研究科、理学研究科に入学した私費留学生と日本人学生が、「環境健康安全学」に関連した教育と研究を協働して行います。このプログラムでは、通常環境健康安全学に関連する講義科目の受講および研究に従事することに加えて、グローバルレベルでのSDGsに関連した課題について議論し解決策を提示するアクティブラーニングやSDGs関連機関でのインターンシップを行うなどの特色があります。
活動の時期	2020年度～2026年度
関連URL	MEXT scholarship 国際交流・留学 名古屋市立大学 (nagoya-cu.ac.jp)
期待される効果、今後の展望	このプログラムで学んだSGSに関連する知識や経験を元に、プログラム受講生は東南アジア地域等でのSDGs関連のリーダーになることが期待されています。また、このプログラムの履修を通じて培われた人脈は、グローバルレベルでのSDGs課題解決に役立つことも期待されています。
所属	医学研究科、薬学研究科、理学研究科
氏名	高橋智、上島通浩、安井孝周、頭金正博、肥田重明、熊澤慶伯、雨夜徹
専門分野	公衆衛生、環境科学、衛生化学、生態学

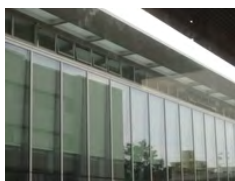


一期生アクティブラーニング発表会

田辺通キャンパスにおける薬学部校舎改築に係る環境対策



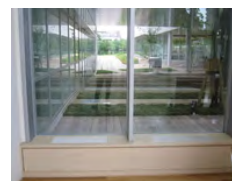
活動の概要	<p>田辺通キャンパスでは、2007年度～2009年度の校舎改築工事以降、以下のような環境対策を実施しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■キャンパスモール(アトリウム)へ自然換気システムと地熱利用のクールチューブを設置し、空調負荷の低減を図っています。 ■キャンパスモール(アトリウム)の窓ガラスに断熱性に優れたペアガラスを採用し、日射負荷の低減対策を実施しています。 ■照明及び誘導灯は高効率型器具を採用し、トイレには照明及び便器・手洗い水栓を自動化・節水型器具を採用しています。 <p>その他、各年度における取組みについては、本学の環境報告書をご覧ください。</p>
活動の時期	2007年度～2009年度以降
関連URL	環境への主な取組み



自然換気システム



室外のクールチューブ(吸込み)

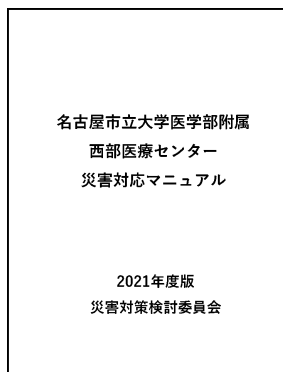


室内のクールチューブ(噴出し)

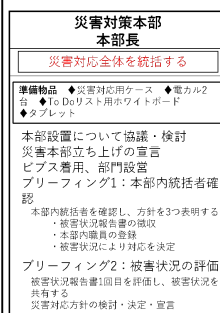
災害対応能力を向上し、地域全体をレジリエントに



活動の概要	<p>【目的】 災害拠点病院としての使命を果たすための備えを充実化し、地域全体の災害対応能力を向上して、レジリエントな地域社会の構築を目指します。</p> <p>【概要】 ■毎年、訓練を行い、見えた課題について対応策を考え、それをマニュアルに落とし込んで改定します。そして、その改定されたマニュアルを翌年の訓練で検証し、さらなる課題に対して対応し、PDCAサイクルをフル回転して、災害対応体制を強化します。 ■災害時に当院が医療を継続するためには何が必要か？どこが弱いか？そのためにはどうしたらよいのか？を考え、BCPという計画を策定し、状況変化に応じて改定します。 ■地域への貢献として、EMIS訓練の場を提供し、地域全体の災害対応能力の向上を目指します。</p>
活動の時期	<p>【年1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図上訓練、・ 実動訓練、・ 外来誘導訓練、・ 部門別初動訓練 ・ 災害対応マニュアルとアクションカードの改定 ・ 地域医療機関を対象とした通信（EMIS）訓練 <p>【年数回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 院内職員を対象とした通信（EMIS）訓練 <p>【5年程度に1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ BCP（事業継続計画）の改定
researchmap URL	https://researchmap.jp/nobusasano
関連する論文	「被災しても生きぬくために～レジリエントな自分と社会を目指して」笹野信子、名市大ブックス10 地域に根ざし、寄り添う医療～西部医療センターの挑戦、2021年12月
期待される効果、今後の展望	<p>■南海トラフ巨大地震のみならず、近年頻発する風水害にたいしても強靱な災害対応体制が構築されます。</p> <p>■当院が病院として機能し続け、入院患者さんの命を守り、さらに、多数の被災傷病者を受け入れ、手当てすることができます。</p> <p>■地域の医療機関の災害対応能力を上げることに貢献し、協力して地域全体で災害を生きぬけるようになります。</p>
所属	名古屋市立大学医学部附属西部医療センター 麻酔科学・集中治療医学分野
氏名	笹野 信子
専門分野	麻酔科学、集中治療、災害医療



災害対応マニュアルとアクションカード

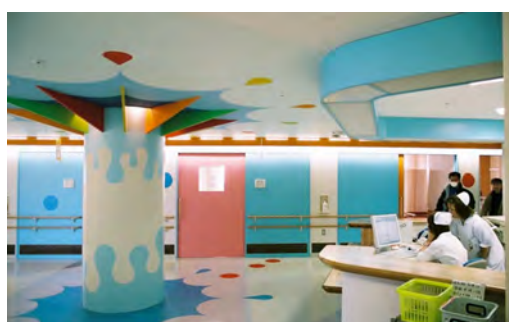


災害対応実動訓練の様子（トリアージ）

ヘルスケアアートによる療養環境改善の実践と検証



活動の概要	日本で未だ普及途上にある「医療などケアの場面のアート活用」に着目し、1996年より現在に至る25年間、療養環境改善を目指すアートによる実践、研究、啓蒙活動に先駆的に取り組んでいます。療養のための入院環境で感ずる不安やストレスを払拭するだけでなく、自己治癒力を引き出し生きる力を後押しする概念として「ヘルスケアアート」を定義づけ、医療現場への導入実践と調査分析による有効性の確認、普及に向けた活動など、医療福祉、建築とアートの相互作用の可能性を切り開く独創的活動です。
活動の時期	アートの制作実践：2000年以降 論文発表：2014年、2019年、2021年
関連URL	なごやヘルスケア・アートマネジメント推進プロジェクト
researchmap URL	https://researchmap.jp/read0094480
関連する論文	「医療施設におけるヘルスケアアートの普及と運用の課題に関する研究」高野真悟、鈴木賢一、日本建築学会計画系論文集No.780、pp.449-457、査読あり 「英国の病院のArts in Healthの概念と活動組織に関する研究 ロンドンの先進的な3病院の事例から」高野真悟、阿部順子、鈴木賢一、日本建築学会計画系論文集No.755、pp.87-96、査読あり 「小児病棟における子どもの療養のためのインテリアデザインに関する研究—小児患者・付き添い家族・看護師のキャプション評価法に基づく—」岡庭純子、鈴木賢一、日本建築学会計画系論文集No.705、pp.2357-2365、査読あり
期待される効果、今後の展望	ヘルスケアアートには、アート系だけでなく、医療福祉分野、建築設計分野、セラピストなど多岐に渡り関心が広がっており、人材育成を目指します。また、企業の社会的責任（CSR）活動や、SDGsの理念と重なる部分も大きく、企業との連携によるアートプロジェクトとする展開を模索します。さらにヘルスケアアートが掲げる「健康で持続可能な社会と人々のウェルビーイング」は、名古屋市の「新たな文化芸術推進体制の構築」とも重なりその連携を目指します。
所属	芸術工学研究科
氏名	鈴木 賢一
専門分野	建築計画学、環境デザイン



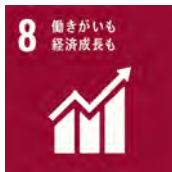
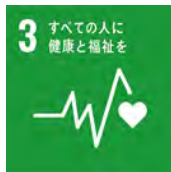
名古屋市立大学病院小児病棟のアート

看護学生を対象とした「やさしい日本語」の教育



活動の概要	<p>保健医療の現場では、日本語を母語としない人びととのコミュニケーションがますます必要となっています。通訳の依頼や自動翻訳機の利用とともに、共通語としての日本語が注目されています。そのような中、日本語を母語としない人びととのコミュニケーションについて看護学生らが考えること、外国人にもわかりやすい日本語についての看護学生らの知識、スキルを調べています。さらに「やさしい日本語」についての教育を行い、その効果を検証しています。既存のガイドラインや手引を活用しながら、効果的な講義・演習方法を探っています。</p>
活動の時期	<p>2019年9月17日：日本語を母語としない人びととの日本語によるコミュニケーションについての予備調査 2020年8月14日：「やさしい日本語」ワークショップ 2021年11月19日：「やさしい日本語」講義（今後毎年継続）</p>
関連URL	<p>名古屋市立大学看護学研究科国際保健看護学WEBサイト</p>
researchmap URL	<p>https://researchmap.jp/read0145307</p>
関連する論文	<p>- 松浦未来, 荒川若菜, 服部記奈, 樋口倫代. 日本語を母語としない人びとへ医療情報を伝達するための看護学生のスキルおよび知識:予備調査と試験的介入. 国際保健医療. 2021; 36; in print.</p>
期待される効果、今後の展望	<p>予備調査では、看護学部4年生らは「やさしい日本語」に特化した知識は多く持ち合わせていませんでしたが、日本語を母語としない人びととコミュニケーションするスキルを一定程度有していました。そこで、現場でも有用となるたしかな知識とスキルが身につくことを目指し、現在は2年生の必須講義の1コマに「やさしい日本語」の講義・演習を取り入れています。また受講学生の同意を得て、効果をフォローする研究を実施中です。</p>
所属	看護学研究科
氏名	樋口倫代
専門分野	公衆衛生

ポストコロナ社会での身体機能維持・向上のための環境デザイン開発



活動の概要	<p>【研究の目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者で問題となっているフレイル予防の取り組み、さらに前段階のメタボリックシンドロームが主体となる現役世代から職場、地域を巻き込んだ地域システム創りを目指しています。 <p>【研究の概要】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ店で市販されているアンクルウエイト（AW）をスマートフォンなどと連動させて社会実装しその有効性を証明します。中京大との共同研究でAWの有効性の実証を行いました。 ・介入研究で得た血液を今後、立命館大学との共同研究で代謝マップ上でのダイナミックな動きを捉えるべくメタボローム解析体制を確立しました。 ・名古屋市健康福祉局との連携で地域包括ケア体制にこれらの体制を組み込んでいく施策を模索します。
活動の時期	<p>2020年2月：AMED令和元年度「IoT等活用行動変容研究事業 成果報告会」</p> <p>2021年12月：論文発表</p>
関連URL	<p>令和元年度 IoT等活用行動変容研究事業 成果報告会 概要</p> <p>名古屋市立大学 近未来労働環境デザイン拠点</p>
researchmap URL	<p>https://researchmap.jp/hiroyasuakatsu</p>
関連する論文	<p>Narouei S,Akatsu H,Watanabe K Regional neuromuscular regulation within rectus femoris muscle following three-month limb-loaded walking in older adults Sports Medicine and Health Science Available online 14 December 2021</p> <p>Muguruma Y, Nagatomo R, Kamatsuki S, Miyabe K, Asano G, Akatsu H, Inoue K. Experimental design of a stable isotope labeling derivatized UHPLC-MS/MS method for the detection/quantification of primary/secondary bile acids in biofluids. J Pharm Biomed Anal. 2021 Nov 25;209:114485. doi: 10.1016/j.jpba.2021.114485. Online ahead of print. PMID: 34856492</p>
関連する特許	<p>発明の名称：転倒予防システム 発明者 赤津裕康、森啓悟、加藤周平 出願日 2019年6月25日 出願番号 特願2019-117877</p>
期待される効果、今後の展望	<p>1) 現役世代からのメタボリックシンドロームからフレイルまでを包含的に予防する習慣づけや職場・地域支援体制の構築によるその後押しシステムにより健康寿命の延伸が期待できる。</p> <p>2) 既存の血液検査の概念を取り払い、ダイナミックな代謝マップ上での血液低分子の動きを捉える事で血液成分のデジタル化を図り、早期の予防介入体制を構築できる。</p>
所属	<p>名市大病院地域包括ケア推進研究センター/大学院医学研究科地域医療教育学</p>
氏名	<p>赤津 裕康</p>
専門分野	<p>老年医学、総合内科・総合診療</p>

都市政策研究センターが「ロボット・AI・IoT導入経営 人材育成講座」を開催



活動の概要	<p>2021年8月6日（金）から9月24日（金）までの間、名古屋市・名古屋工業大学との連携事業として、企業の経営者層を対象にロボット・AI・IoT導入経営人材育成講座（全8回）を開催しました。ロボット・AI・IoTに精通した本学の各研究科の教員9名により、AIの基礎となる機械学習や個人情報保護・情報倫理の重要性、ロボット基礎や産業応用事例の紹介、信号・画像処理分野におけるAIやIoTの導入事例など、ロボット・AI・IoT導入の計画や検討に必要な基礎・応用知識を学ぶ多彩な講義を開講しました。熱心な受講者からは質問が飛び交い、「有益な講義だった」「新鮮な知識を得られることが嬉しい」との声も聞かれ、好評を博しました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.42（2021年12月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年8月～9月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.42

本学人文社会学部の学生が「スマホでオフラインでも見ることができるポケット防災」を作成



活動の概要	<p>本学の人文社会学部の曾我ゼミの学生たちが、滝子キャンパスで学ぶ学生を対象に防災の情報を提供する「スマホでオフラインでも見ることができる新・ポケット防災」を作成しました。</p> <p>本学では、滝子キャンパスで学ぶ学生全員に防災情報が載っている持ち運び可能な「ポケット防災」を紙媒体にて配布していますが、曾我ゼミの学生たちはより携帯しやすいようにスマホに着目し、オフラインで閲覧可能な「新・ポケット防災」を作成しました。</p> <p>こちらは「防災用品リスト」「大学マップ」「ハザードマップ」などの情報が新たに追加された他、「誰一人取り残さない」を目標に様々なニーズを反映した内容にすることを心がけたり、やさしい日本語表記の冊子を別に作成したりするなどの工夫がされています。</p> <p>今後は従来のポケット防災の補足資料として、滝子キャンパスで学ぶ学生に配布する予定です。</p>
活動の時期	2021年度



本学学生がSDGs IDEA FORUM 2021で優秀賞を受賞！



活動の概要	SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決することを目指して開催された「SDGs IDEA FORUM 2021」において、本学から参加した「Co-link」（人文社会学部3年・2年）が優秀賞を受賞しました。
活動の時期	2022年2月
関連URL	SDGs IDEA FORUM 2021



【優秀賞】

チーム名：Co-link
企画名：『CoCoからマッピング』
(人文社会学部3年・2年)

SDGs IDEA コンテストを開催



活動の概要	<p>本学では、名古屋市と連携して、SDGs達成に向けた名古屋市の地域課題を大学生のアイデアで解決に導く「SDGs IDEA FORUM 2021」を実施しています。</p> <p>総数38件の応募アイデアのうち、厳正な書類選考を通過した優秀8チームが参加する「SDGs IDEA コンテスト」が2022年2月26日に本学さくら講堂で開催されました。</p> <p>当日は、参加した8チームによるプレゼンテーションが行われた他、本学SDGセンター副センター長でエコチル調査愛知ユニットセンター副センター長の榎原准教授（医学研究科）による講演等が行われました。</p>
活動の時期	2022年2月
関連URL	SDGs IDEA FORUM 2021



NCUサステナビリティ・シンポジウム2021報告書刊行



<p>活動の概要</p>	<p>NCUサステナビリティ・シンポジウム2021「防災×SDGs～いま、私たちが備えることは～」(名古屋市立大学主催、名古屋市・名古屋市教育委員会・JICA中部・名古屋市立大学SDGsセンター後援)を2021年11月3日(水)にオンライン(ZOOM使用)にて開催しました。シンポジウムでは、計8チームが防災とSDGsを掛け合わせ、不確実性の高い時代に生きる私たちにとってすべきことは何かを考え、子ども・若者の視点から示し、発表しました。その報告内容および共同ワークショップの概要をまとめた報告書が完成しました。子どもたち・若者たちの声を通して、改めて防災について考える機会となりました。</p> <p>なお、本シンポジウムに関する事業は名古屋市立大学特別研究奨励費(地域貢献型共同研究の推進事業)の助成を受けて実施されました。</p> <p>【参加チーム】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 曾我ゼミ ・名古屋市立大学人文社会学部心理教育学科 椎名ゼミ ・名古屋市立大学看護学部看護学科地域保健看護学ゼミ ・名古屋市立大学高等教育院CS: presentation ・オルタナティブスクール あいち惟の森 ・名古屋市立北高等学校国際理解コース ・名古屋市立名東高等学校国際英語科 ・名古屋市立工芸高等学校都市システム科
<p>活動の時期</p>	<p>2022年1月刊行</p>
<p>関連URL</p>	<p>NCUサステナビリティ・シンポジウム2021開催</p>
<p>所属</p>	<p>人間文化研究科(人文社会学部心理教育学科)</p>
<p>氏名</p>	<p>曾我 幸代</p>
<p>専門分野</p>	<p>ESD</p>



NCUサステナビリティ・シンポジウム報告書 (PDF ファイル 6.86MB)

開学70周年記念コンサートを開催しました



活動の概要	<p>2021年11月21日（日）、愛知県芸術劇場コンサートホールで、名古屋市立大学 開学70周年記念コンサートを開催しました。</p> <p>コンサート開催に向けて、オーケストラは名古屋市立大学管弦楽団およびOB管弦楽団から希望者を募り、合唱団は本学教職員の呼びかけにより結成しました。新型コロナウイルス感染症の拡大により緊急事態宣言が発令されるなど、集合しての練習がままならない中、合唱については動画指導も活用しながら、各メンバーが練習を重ねました。感染拡大が落ち着いてからは、数少ないながらも集合練習を行い、指揮者の熱心な指導の下で結束を高め、本番を迎えることができました。</p> <p>本番では、オーケストラ107名と合唱団64名がプロのソリストとともに、ベートーヴェン「第九」の演奏を響かせました。感染症予防対策として、収容人数を約50%に抑えるなど規模を縮小しての開催となりましたが、素晴らしい演奏と歌声に、オーケストラ、合唱団そして観客が一体となり約900名が感動を分かち合いました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.43

TEEPシンポジウム・ワークショップ2021を開催！



活動の概要	<p>2021年11月18日（木）、本学が文部科学省の「持続的な産学共同人材育成システム構築事業」に採択された「進化型実務家教員養成プログラム（TEEP）」第2回シンポジウム・ワークショップがオンラインで開催され、約130名が参加しました。シンポジウムでは、今後の人材養成における実務家教員のあるべき姿と役割が議論され、実務家教員がシミュレーションや課題解決型演習等の実践的学習の担い手であることが強調されました。また、ワークショップでは、修了生5名から、修了生から見た実務家教員養成プログラムの意義と受講による貴重な体験が語られました。キーワードは自らのキャリア開発デザインでした。活発な質疑応答もあり、豊富な実務経験と教育力を併せ持つ実務家教員が、企業と大学をつなぎ、新たな価値を生み出す可能性を感じるものとなりました。</p> <p>※本件は本学広報誌『創新』Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2021年11月
関連URL	本学広報誌『創新』Vol.43

人文社会学部学生が瑞穂区高校生向けに「SDGsと観光まちづくりについて考えるワークショップ」を開催！



活動の概要	<p>人文社会学部三浦哲司准教授のゼミでは、「名古屋の観光まちづくり」をテーマに、カードゲーム体験を通じて観光まちづくりのあり方を体験できるワークショップを、中学生や高校生向けに展開しています。今回は2022年1月13日（木）に、瑞穂区内の高校生23名の参加の下、SDGsを意識しながら、名古屋の観光の振興とその反作用の両面を考えるワークショップを開催しました。参加した高校生は、学校も学年も異なる5チームに分かれ、カードゲームに挑戦しました。初対面同士でチームを組みましたが、時折笑いも起こるなど、和やかな雰囲気の中でゲームは進んでいきました。参加した高校生からは、「まちづくりについて考える良い機会になった」「今日の学びを自らの行動につなげたい」などの感想も寄せられています。この取り組みは瑞穂区役所との連携で行われているもので、今後も継続していく予定です。</p> <p>※本件は本学広報誌『『創新』 Vol.43（2022年3月発行）に掲載されました。</p>
活動の時期	2022年1月
関連URL	本学広報誌『『創新』 Vol.43